

技能検定のおてびき

じゅうたん床清掃及びガラス・窓枠清掃

清掃部門

令和3年8月改訂

鳥取県教育委員会

目次

1	キャリア教育の推進に向けて	1	
2	じゅうたん床清掃及びガラス・窓枠清掃の概要	2	
	(1) 検定に向けて		
	(2) 検定の種類		
	(3) 身だしなみ		
	(4) 挨拶		
	(5) 使用する用具の名称		
	(6) 検定会場図		
3	検定内容の一部改訂について	6	
4	「検定前準備」から検定までの流れ	7	
	(1) チャレンジ検定		
	(2) マスター検定		
5	資材保管テーブルとカート収納場所について	8	
6	ビルメンテナンス業での「色」の使い分けについて《参考資料》	10	
7	チャレンジ検定・マスター検定の流れ	11～33	
	(1) 開始の挨拶と清掃の用意	} チャレンジ 検定	
	(2) 真空掃除機の準備と始動点検		
	(3) 真空掃除機による除塵の開始		
	(4) 最終点検と退室の挨拶		
	(5) 資機材の片付け		
	(6) ガラス・窓枠清掃の作業準備		} マスター検定
	(7) 作業開始の挨拶		
	(8) ガラス・窓枠清掃の開始前準備		
	(9) ガラス・窓枠清掃開始		
	(10) 全作業終了の挨拶		
	(11) じゅうたん清掃手順図	} 34～38	
	(12) ガラス・窓枠清掃手順図		
8	評価と採点方法	39	
	(1) 評価項目と評価基準		
	(2) 採点方法		
	(3) マスター検定とチャレンジ検定の級		
9	参考資料 (技能検定進行表)	45～46	

1 キャリア教育の推進に向けて

特別支援教育において、一人一人の自立や社会参加に向けて、個々の状態に応じたきめ細かい指導・支援のもと、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育が求められています。

このたび、本書「技能検定のとびき」では、子どもたちのキャリア発達を促す上で有効な学習の一つである「清掃部門」について取りまとめています。

清掃の学習は、目的の場所を清掃し、きれいになっていくことを実感として捉えやすく、達成感や充実感をもちやすいと考えます。そのため、働くことの喜びを味わうとともに、働く意欲や態度、清掃の技術を高めようとする向上心につながっていくことが期待されます。

高等部においては、「職業」、「流通・サービス」、各教科等を合わせた指導で扱われることが多いと思いますが、清掃時間や給食時の机拭き等、学校生活全体において学ぶ機会が多くあります。

このとびきの活用をとおして、技能検定を受ける生徒においては、検定の工程や内容の理解を進め、清掃技術面の向上を目指すとともに準備や片づけを日常的にしようとすることや、場所に応じて清掃経路を考えることなど、生きた力の育成を目指してほしいと願います。

さらには、検定を受ける生徒だけでなく、小学部や中学部も含め、道具の使い方や清掃の仕方に慣れ、意欲的に清掃に取り組む子どもたちの育成のため、学校全体で活用していただくことを期待しています。

2 じゅうたん床清掃及びガラス・窓枠清掃検定の概要

(1) 検定に向けて

検定では、定められた制限時間の中で、部屋に見立てた幅木（はばき）枠の中を指定された道具を使い、床をきれいにし、ガラス・窓枠を拭くという、室内掃除の流れを行います。検定のポイントは次の3点です。

- ・ 道具を適切に使い、ゴミの取り残しや水滴等の拭き残しがない。
- ・ 室内の物に損傷がないように丁寧に扱い、元の状態に戻っている。
- ・ 挨拶や作業中の態度は、基本的なことができている。

清掃をする際には、壁や物品を傷つけず、ゴミの取り残しや、ガラス窓枠作業での拭き残しがないようにすることが大切になります。検定場は幅木で仕切っただけですが、幅木の上は壁になっていることを想定し、体や物がぶつからないようにします。また、流れるようにスムーズに清掃をしていくことも大切で、結果的に時間が短縮され、作業の効率がよくなり、室内で仕事している人の気を散らすことも少なくなるでしょう。ただきれいにするだけでなく、人や物に気を配りながら作業できることは、きっと就労にも役立つ力となることでしょう。

検定の流れは工程も多いため、生徒によっては順番を覚えることが難しい場合も考えられます。その際は、手順表や、道具に印をつけるなど、生徒の実態に応じた支援を取り入れてください。全て覚えて工程どおりに完璧にできることを目指すこともよいですが、実際に働くことを想定し、「どうすればできるのか」を考えて支援することも重要です。生徒が身につけている力が十二分に発揮できるように、指導、支援をしてください。

この検定をとおして、学習で身につけた清掃の技術を発揮することは大事です。その上で、職業全般をとおして大切にされる挨拶や態度、物を適切に使うことや丁寧にすることなど、検定の姿から見えてくるとすばらしいです。

(2) 検定の種類

じゅうたん床清掃及びガラス・窓枠清掃の検定は、マスター検定とチャレンジ検定の2種類があります。

マスター検定は、じゅうたんを敷いた部屋を掃除機を使用して除塵した後、ガラス・窓枠清掃を行います。

チャレンジ検定は、じゅうたん清掃のみです。

(3) 身だしなみ

検定時に推奨される服装です。実際の清掃業務の服装に準じています。



身だしなみや、靴の紐を結んでおくことなどは、日常的に指導を行います。普段から鏡を見て確かめることや、作業の前に紐をしっかり結ぶことなど、自分で意識できるように指導しておくことが大切です。

(4) 挨拶

検定中には3つの挨拶方法があります。

①検定開始と終了時の挨拶

片手を上げ、はっきりした声で、「始めます」、「終わります」と伝え、礼をします。

②最初の入室と最後の退室の挨拶

最初に部屋に入室するときは、帽子を取り、はっきりした声で「失礼します。」と伝え、礼をします。最後に部屋から退出するときも同様の所作で、「失礼しました。」と言います。

③作業中の入退室の挨拶

作業の途中で入退室する場合は、声を出さずに入口で礼をします。仕事の場合、何度も声をかけると業務の邪魔になる場合があるからです。

いずれの場合も、きびきびした動作で、気をつけの姿勢から礼をします。

挨拶の声や礼の仕方は日常的に指導を行います。他の学習とも関連づけて、適切な挨拶ができるように指導しておくことが大切です。

(5) 使用する用具の名称

検定で使用する用具を紹介します。ここに示した呼び方は、本てびき内で使われる呼び方です。同じ用具でも様々な呼び方があるので、生徒の実態に応じて指導してください。

(1)作業カート



用具を収納するカートです。

(2)作業表示板



作業時に部屋の前に立てます。

(3)真空掃除機



じゅうたん清掃に使用します。

(4)水バケツ



青タオルをすすぎます。

(5)収納ケース



白タオルとスクイジーを収納します。

(6)タオル



湿式用 乾式用
(青タオル) (白タオル)

窓枠清掃に使います。

(7)スクイジー

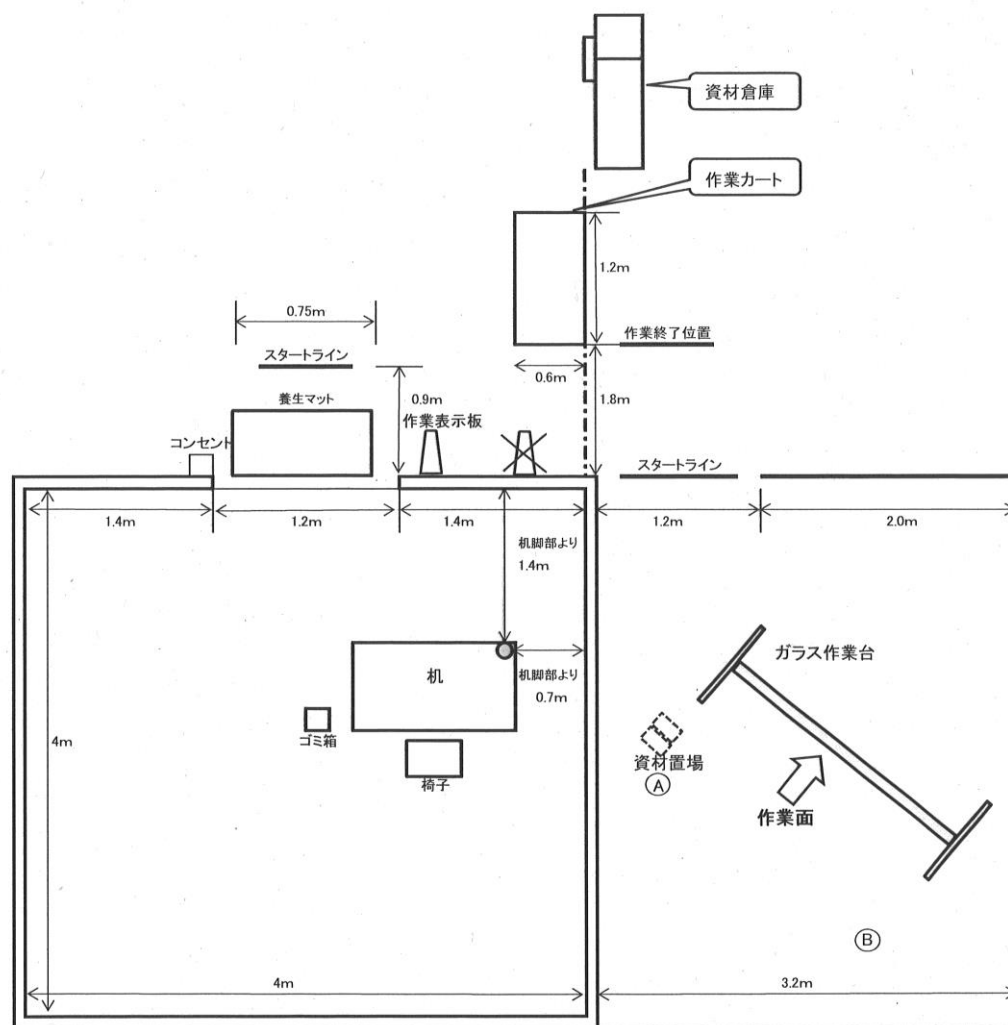


窓枠清掃に使います。

(6) 検定会場図

検定用コートは幅木で仕切られています。幅木の上には壁がある想定になっていますので、幅木の上から身体や道具が出ないようにしてください。

じゅうたん清掃及びガラス・窓枠清掃検定会場図



* 資材置場はA・Bの左右どちらでも構いません。

検定員

※マスター検定の会場図です。チャレンジ検定ではガラス・窓枠清掃はありません。
 ※会場の関係で、保管場所、スタートラインの距離は変わることがあります。

3 検定内容の一部改訂について

(1) 作業工程の追加について（採点には含まれません）

- ① 「検定前準備」として受検者が資材保管テーブルから「必要な資材」と「必要でない資材」を選別し、作業カートに準備する工程を追加しました。

注：但し、「チャレンジ検定」では作業に必要な資材しか用意されていません。

(2) 作業手順の見直しについて

- ① 「ガラス・窓枠清掃」の枠拭き作業（P37）の開始場所と終了場所を明確にしました。

- ・ガラス面水塗布作業、枠拭き作業ともに、たて枠下部（左右どちらからでも可）から上方へ ⇒ 上部枠 ⇒ たて枠上部から下方へ ⇒ 周回して最後に下枠の拭き上げに統一します(P37・P38 手順図参照)。

- ② 作業表示板の設置場所について

- ・従来は作業カートの前方あたりでしたが、出入口の近くで作業に支障のない場所に変更します(P8 参照)。*採点には反映されません。

4 「検定前準備」から検定までの流れ

(1) チャレンジ検定

- ① 補佐員からの合図「受検番号〇〇さんは作業カートに資材をセットしてください。」
- ② 資材保管テーブルにあらかじめ用意してある資材を作業カートにセット
(作業に必要な資材しか用意してありません)。
- ③ 受検者は補佐員に「準備できましたので、確認してください」と告げる。
- ④ 補佐員は適切な場所にセットされているか確認(配置場所の間違ひは指摘し、受検者が修正)。
- ⑤ 審査員から声が掛かるまで、スタートラインに立って待機。
- ⑥ 審査員の「受検票を持ってきてください。」の合図で審査員に受検票を手渡したあと、スタートラインに立ち検定開始。

(2) マスター検定

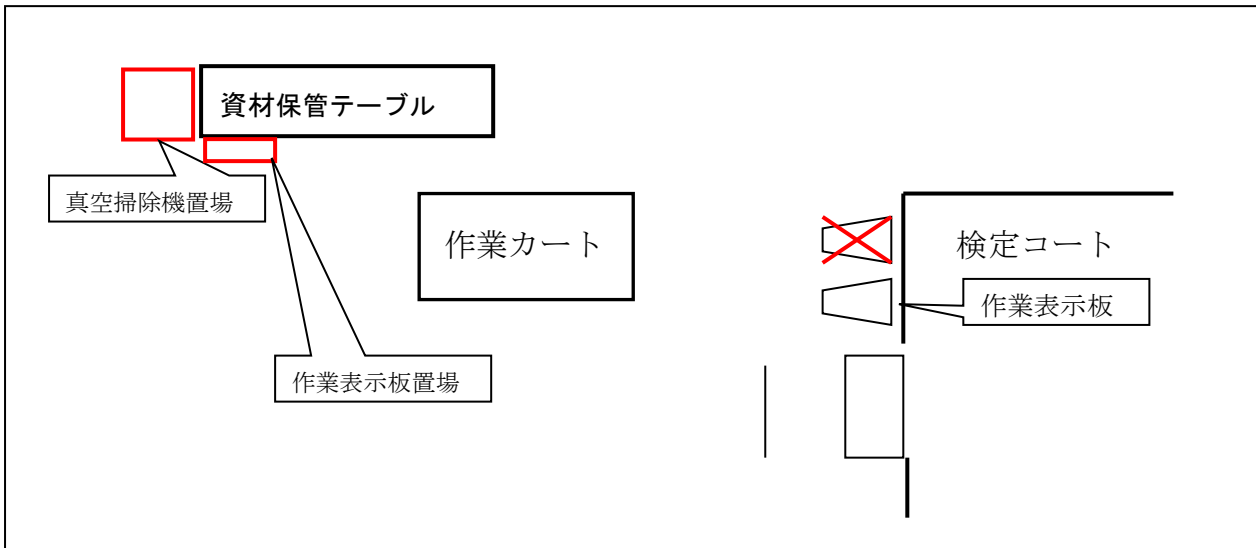
- ① 補佐員からの合図「受検番号〇〇さんは作業カートに資材をセットしてください。」
- ② 資材保管テーブルには「作業に必要な資材」と「作業に必要でない資材」が混在して置いてあり、その中から必要な資材を選別し、作業カートにセット。
- ③ 補佐員は適切な場所にセットされているか、また資材の選別は正しいかを確認し間違ひがあれば指摘し、受検者が修正。
- ④ 審査員から声が掛かるまで、スタートラインに立って待機。
- ⑤ 審査員の「受検票を持ってきてください。」の合図で審査員に受検票を手渡したあと、スタートラインに立ち検定開始。

※巻末に、検定時の進行が分かるよう(補佐員・審査員)の分担表を貼付しています。

※「チャレンジ検定」「マスター検定」ともに、検定前準備は採点には含まれません。

5 資材保管テーブルとカート収納場所について

◎資材保管テーブルと作業カートの位置（チャレンジ・マスター共通）



◎「チャレンジ検定」 資材保管テーブル・作業カートについて

真空掃除機

作業表示板

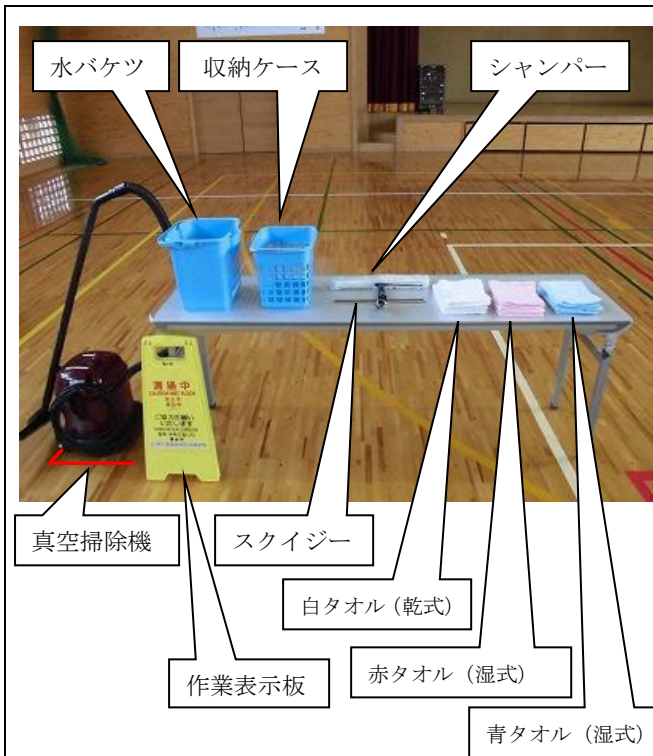
○資材保管テーブル
脚部には作業表示板を立てかけてあり、テーブル横には掃除機置場が設置されています。

・必要資材
①作業表示板
②真空掃除機
*必要な資材しか用意されていません。

○作業カート
作業カート内には「X」を除いた上記①・②のをセットします。

「検定前準備」は採点に含まれません。

◎「マスター検定」資材保管テーブル・作業カートについて



○資材保管テーブル

テーブル上と床上には作業に必要な用具と必要でない用具が混在して置いてあります。その中から必要な用具だけを選び出し、作業カートにセットします。

・作業に必要な用具

- ① 作業表示板
- ② 真空掃除機
- ③ スクイジー
- ④ 水バケツ
- ⑤ 収納ケース
- ⑥ 白タオル（乾式）
- ⑦ 青タオル（湿式）



○作業カート

・作業に必要な資材を準備した状態です。

・上段には収納ケース・スクイジー・青タオル（湿式）・白タオル（乾式）が置いてあり、中段には水バケツ、下段には掃除機がセットしてあります。



「チャレンジ検定」「マスター検定」ともに、検定前準備は採点に含まれません。

6 ビルメンテナンス業での「色」の使い分けについて《参考資料》

◎「床及び机上清掃」を例に説明します。



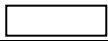

- ・通常の日常清掃において、使用する資材の色分け（カラーリング）は、普段よく目にする信号機と類似点があります。
- ・国際基準では信号の色は「赤・黄・緑・青・白」の5色と定められています。

赤 ・ 黄 ・ 青（緑）	交通信号に使用
白 ・ 青	航空信号等に使用

●技能検定で使用される資材の色分け

・作業カート	青 ・ 灰色（（白系）・緑 他
・モップ柄 ・文化ちり取り ・小型ぼうき ・湿式モップ（青、緑、白、黄、赤）	青・緑・灰色（白系）他 *基本の資材の選択としてモップ持ち手、クリップ部分の色とモップ房の色を合わせることを推奨します。
・湿式タオル ・乾式タオル	青 } *使用場所、用途により色分けは 白 } 異なりますが黄・赤は注意、危険色と認識してください。
・作業表示板	黄 （注意喚起色）

◎各事業者により資材の色分け（カラーリング）は異なりますが、「安全色」「注意・危険色」は統一されていますので、ここに病院を例にとり説明します（下記参照）。

色分け	病院等に準ずる名称	使用場所
	・清潔エリア	手術室他
	・通常エリア	病室・一般外来他
	・一般エリア	事務室・会議室他
	・汚染拡散防止エリア	トイレ・ゴミ置場他

*一般清掃作業において、細かく色分けはしませんが、赤・黄は注意、危険色と認識し、使用する際には使用する場所への配慮が必要です。但し、中間色の色分けについてはこの限りではありません。

*上記のカラーリングをもとに「そのエリア以外」では使用しないように分けることを「ゾーニング」といいます。

7 チャレンジ検定・マスター検定の流れ

(1) 開始の挨拶と清掃の用意 (チャレンジ検定) (マスター検定)





工 程	内 容	指 導 内 容
① 審査員に開始の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 片手を上げ、「始めます。」と言い、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 始まるまでに服装や道具の点検ができるようにする。 まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 審査員に聞き取りやすい挨拶の早さや声量を意識する。
② 作業カートを作業場所入口付近に移動	<ul style="list-style-type: none"> 作業しやすいように、作業カートを入口の近くに移動させる。 	<ul style="list-style-type: none"> カートが入口に近すぎたり、人が通りにくくならないようにする。 作業カート保管場所（赤テープ枠）からまっすぐに押し出し、枠内から完全に出す。
③ 作業表示板の設置	<ul style="list-style-type: none"> 見やすいように作業表示板を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 通行する人に分かりやすいように、作業表示板を設置する。 設置場所は出入口に近い場所で、資材の出し入れに支障のない場所とする(P8 参照)。

(2) 真空掃除機の準備と始動点検

工 程	内 容	指 導 内 容
<p>① 真空掃除機を作業カートから下ろし、作業場所の近くに移動する</p>	<p>・コート入口右側に設置してあるコンセントの近くに移動。</p> 	<p>・掃除機は転がしたりせず、取っ手部分を持ち移動する。</p>
<p>② 本体フックからコードを外す</p>	<p>・作業のしやすいようにコードをほどき広げておく。</p> 	<p>・コードを踏んだりまたいだりしない。</p>
<p>③ 本体のプラグをコンセントに差し込み、始動点検を行う</p>	<p>・本体からノズル管を外し、持ち手部分（屈曲部）を本体に添える。</p> <p>・片方の手でスイッチを入れもう一方の手で風量を確認する。</p>  <p>・点検後、吸い込み口を下向きに戻し、その状態で仮置く。</p> 	<p>・風量確認は本体にノズル管を添えた状態で実施する。</p> <p>・吸い込み口を上向きにして、風量確認する。</p>  <p>・確認後、スイッチを切り、指差して、「風量があったか」、「スイッチが作動したか」確認を行う。</p>

④ 作業に必要なコードの長さをたぐり寄せる	<ul style="list-style-type: none"> ・たぐり寄せたコードは養生マットの後部付近に仮置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コードによる壁の損傷を防止するため、コードが幅木（壁）をまたがないようにする。
-----------------------	--	--

(3) 真空掃除機による除塵の開始

① 最初の入室挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・入口のマット上で室内に向かって立ち帽子を取り、はっきりした声で「失礼します」と伝え、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 ・審査員に聞き取りやすいように挨拶の早さや声量を意識する。
② 除塵作業の開始 A:(入口正面部分作業)	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての作業工程において動線を意識し無理、無駄のない作業を心掛ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての作業方法は作業手順経路図、作業区分手順図（A～G）に従い作業を実施する。 ・掃除機の移動場所は、作業区分手順図に示すが、あくまで目安であり、生徒が除塵しやすい場所でありよい。
③ 室内へ入室 B:(入口右部分作業)	<ul style="list-style-type: none"> ・入口正面を除塵したスペースの左側から入口幅木側へ動線に沿って除塵し、幅木下部を右から左へ除塵 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅木（壁）にコードが掛からないように注意する。 

④ 室内作業
C: (中央右部分作業)

- ・幅木側からゴミ箱手前まで動線に沿って除塵。



D: (右奥部分作業)

- ・ゴミ箱手前の延長線上から幅木側へ除塵し、幅木下部を右から左へ除塵。

E: (左奥部分作業)

- ・右奥部分からの動線に沿って幅木側から机手前まで除塵。

F: (中央左部分、机、椅子、ゴミ箱周辺作業)

- ・左奥部分からの動線に沿って幅木側から机側へ除塵し、机下、ゴミ箱下を除塵。



- ・幅木（壁）側作業時にホースのじゃばら部分がはみ出さないよう注意する。



- ・吸い込み口を床に強く打ちつけない。

- ・本体（掃除機）が作業中にノズル管とホースに引っ張られ移動しないよう注意する。本体を移動する時は、必ず本体を持って移動させる。






- ・本体（掃除機）のコードが机の脚部に寄っているため、コードを持って移動に必要なスペースを作る。




- ・移動に必要なスペースを作る際に、コードが幅木の上をまたがないように注意する。

<p>G : (入口左部分作業)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本体を持ち上げ（スイッチは入れたまま）入口左側へと移動。 ・ 机下を右から左へと 除塵し、机側から入口側へ進み最後に幅木下部を除塵しスイッチを切る。  	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椅子の移動は背もたれ部分を片手で軽く持ち上げ、じゅうたん上を引きずらないよう出し入れする。 ・ 椅子、ゴミ箱は除塵を終えた場所に移動し作業後、定位置に戻す。
<p>⑤ 退室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノズル管を片手に持ち、一方の手で本体を持ち、その状態のまま入口マット上で室内に向かって黙礼する。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 本体を作業開始時の場所に仮置きしたら、ノズル管を本体に戻す。 	

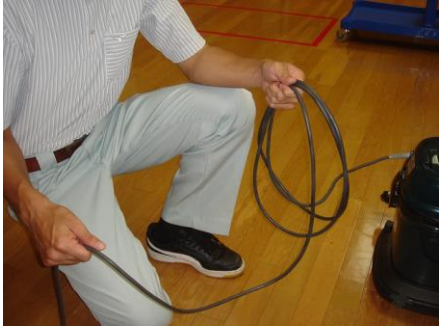


<p>⑥資機材（掃除機）の片付け</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・コンセントからプラグを抜き、コート内に残っているコードをたぐり寄せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず本体のプラグを持って抜く。（コードを引っ張らない） 
----------------------	---	--

(4) 最終点検（じゅうたん清掃）と退室の挨拶

工程	内容	指導内容
<p>① 入室時の礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入口のマット上で室内に向かって立ち、黙礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。

<p>② 最終点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが残っていないか指差しで確認する。 ・椅子やゴミ箱の位置は元通りになったか指差しで確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが落ちていたら拾ってズボンのポケットに入れる。 ・周囲の状況に配慮し、指さし点検は声を出さずに行う。
<p>③ 最後の退室挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入口前に立ち、帽子を取り、「失礼しました」と、はっきりした声で伝え、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 ・審査員に聞き取りやすいように挨拶の早さや声量を意識する。

(5) 資機材の片付け

<p>① コードを巻いて本体フックにかける</p>	<p>・作業終了後に仮置きしていた本体のコードを根元から巻く。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・コードがよれないようにするため、本体の根元からコードを巻く。 ・作業全般での共通意識として「腰」を落として作業を行う際には片膝を床につけ、安全姿勢(怪我防止)を取ることを。
<p>② 掃除機をカートにもどす</p> <p>*チャレンジ検定の受検者は枠内にカートに戻して終了する。</p>	<p>・本体(掃除機)を持ち、作業カートへと納める。</p>  	<p>・ノズル管を本体に収めた状態で持ち上げて納める。</p> <p>*「チャレンジ検定」の受検者は「作業終了しました」と審査員に告げ作業を終了する。</p> <p>*「マスター検定」の受検者は掃除機を作業カートに戻したあと、「ガラス・窓枠清掃」と作業を進める(終了挨拶はしない)。</p> 

(6) ガラス・窓枠清掃の作業準備 (マスター検定)


<p>① スクイジー、タオル、水バケツの準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作業カート上に準備されているスクイジーと白タオル（乾式）を収納ケースに収める。 同じく、作業カート上に準備されている青タオル（湿式）をあらかじめ準備してある水バケツに入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 収納ケースの底部に白タオル（乾式）（8つ折り）を置き、その上にスクイジーのゴム刃を上にしてセットする。
----------------------------	--	---




(7) 作業開始の挨拶



<p>① 収納ケースと水バケツを持ちコート入り口まで進む</p>	<ul style="list-style-type: none"> 両手に収納ケースと水バケツを持ち、作業準備場所からコート入口まで進む。 コート入口手前で収納ケースと水バケツを並べて置く（自身の左右どちらでもよい）。 	<ul style="list-style-type: none"> 「じゅうたん床清掃」のあと、作業カートの後ろ側を回り、「ガラス・窓枠清掃」の道具を準備して室内入口まで進む。
----------------------------------	--	--






<p>② 最初の入室の挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入口のスタートライン上で室内に向かって立ち、帽子を取り、はっきりした声で「失礼します」と伝え、礼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐに立ち、礼までの動作をきびきびと行う。 ・審査員に聞き取りやすい挨拶の早さや声量を意識する。
-------------------	---	--

(8) ガラス・窓枠清掃作業の開始前準備

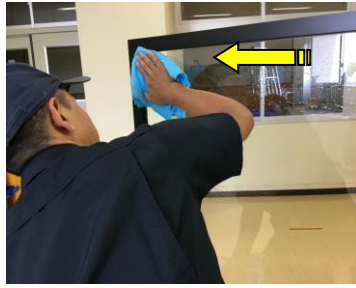
工 程	内 容	指 導 内 容
<p>① 収納ケースと水バケツを持ち入室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収納ケースと水バケツを作業の邪魔にならない場所に置く。   <ul style="list-style-type: none"> ・スクイジーを収納ケースのふちにかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・置く場所は、ガラス台に対して左右どちらでもよいが近づけすぎない。 ・収納ケースの中のスクイジーは後々の作業がしやすいようにケースのふちに掛けておく。

<p>② 青タオル（湿式）の準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水バケツの中のタオルを水が垂れ落ちない程度に絞り、そのタオルを8つ折りにきちんとたたむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 水がこぼれないように、バケツの中でタオルを絞り、8つ折りにする。 水が垂れないように、タオルで手を拭く。  <ul style="list-style-type: none"> 青タオル（湿式）は垂れない程度に絞る。
----------------------	--	--

(9) ガラス・窓枠清掃

<p>① ガラス面に水を塗布する (ガラス面枠側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 親指と中指の間に挟むように持ち、手の平全体で包みガラス面に水を塗布する。  <ul style="list-style-type: none"> ガラス面のふちを一周して隅まで塗布する。  	<ul style="list-style-type: none"> ガラス面右上部には水性ペンによる汚れ(斜線)が付けられている。  <ul style="list-style-type: none"> 利き手により(時計回り、反時計回り)タオルを進める方向は異なるが、いずれの場合もたて枠下方から上方へ進み上枠、そして枠を周回して最後に下枠側への塗布をする。
-----------------------------------	---	---

- ・上枠部分の塗布から左たて枠部分への塗布へと進む。



- ・左たて枠上方から下方へ塗布。



- ・外周塗布の後、最後に下枠部分を塗布する。

- ・外周を拭いたタオルをきれいな面に折り返し、ガラス面の半分を横塗りし、残り半分はタオルを裏返し、きれいな面で同様に横塗りする。

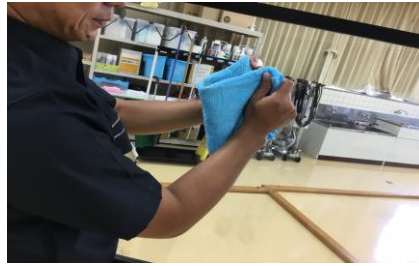
②ガラス面に水を塗布する（ガラス面中央部）

- ・四隅は塗り残しが無いよう、人差し指で押し込みながら塗布する。



- ・ガラス面水塗布作業の際の青タオル（湿式）は固く絞りすぎないようにする（下記に示す現象が起きやすくなるため）。
- ・水塗布の量が少ないとガラス表面の水分が蒸発し、スクイジーの引き音の原因にもなるので素早く塗布することと、垂れない程度の量を塗布する。





③ スクイジー作業（作業準備）

- ・塗布作業で使用した青タオル（湿式）を水バケツの中ですすぎ、固く絞り8つ折りにたたむ。
- ・絞ったタオルを一方の手に持ち、スクイジーをもう一方の手に持つ。



④ 縦引き作業（スクイジー作業）

- ・上部から下部へスクイジーを引き下ろす（ガラス面に対し左右どちらからでもよい）。
- ・作業の終了した側のゴム刃を、5 c m程度傾けながら進めていく。



- ・ガラス面を半分に分け、タオルの面を変えながら塗布する。
- ・塗り残しの無いように塗り、跡を重ねて塗布する。

- ・スクイジー作業中に水分を落とさないようにタオルで受けるためと、スクイジー作業毎にゴム刃を拭くためタオルは固く絞っておく。

- ・スクイジーは途中で止めないようにし、身体全体で一気に引く（手だけで引き下ろさない）。

- ・スクイジーはゴム刃の端からの水の引き線を防ぐため斜めにして引き下ろす。



- ・ガラス面の下の部分を10 c m程度残したところで止める。

- ・スクイジー操作をするたびにゴム刃を青タオル（湿式）で拭く。



- ・引き残しの無いように、前の引き後に5 c m程度重ねる。



- ・縦引き作業で残った部分をタオルで再塗布する。



- ・スクイジーの角度を一定に保ちながら、引き跡を残さないようにする。

- ・角度を一定に保つために、膝を曲げ体全体で引くようにする。

- ・スクイジーのゴム刃の角度を調整し、ゴム刃とガラス面が密着するように引く。



- ・枠に対して平行に引き下ろさない。

⑤横引き作業
(スクイジー
作業)

- ・ガラス面のたて枠の左側から
右側へ横引きする。



- ・水分を落とさないように、ガラ
ス枠下部にタオルを添えなが
ら一気に横に引く。



⑥扇引き作業
(スクイジー
作業)

- ・横引き作業で 10 c m 程度残
った部分の右枠にスクイジー
を当て、下枠に向かい扇形に
引き下ろす。



- ・扇形に引き下ろす時も、水分を
落とさないようにタオルを添
える。

- ・ゴム刃の角度には注意して、腰を
落とした姿勢で引き下ろす。



<p>⑦スクイジの保管 (スクイジー作業の終了)</p>	<ul style="list-style-type: none"> スクイジのゴム刃を拭き取り、収納ケースに掛けておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 使い終わったスクイジはゴム刃を傷めないように収納ケースに掛けておく。
<p>⑧ガラス枠拭き業 (濡れ拭き作業)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 青タオル (湿式) を水バケツの中ですすぎ、固く絞ったあと16折りにして持つ。 ガラス面に触れないように注意しながら、枠を一周して拭き上げる。   	<ul style="list-style-type: none"> 指全体で包み込むようにして持つ。 枠の汚れを落とすために、往復動作で青タオル (湿式) の汚れた面を変えながら丁寧に拭く。 ガラス枠の左右下半分と下部には固定ネジがあり、ネジ同士間は一方向動作で拭き上げる。 指先の怪我には細心の注意を払   

- ・拭き終えたタオルはバケツの中ですすぎ、固く絞った後バケツの枠に8つ折りで掛けておく。



⑨ガラス枠拭き作業（乾拭き作業）

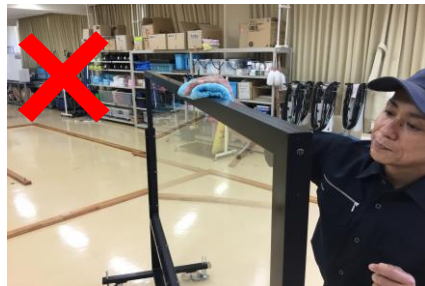
- ・白タオル（乾式）を使用し、濡れ拭き作業と同じ手法で仕上げていく。



う。

- ・ガラス面水塗布作業と同様に左右横枠の下方から上方へ拭き上げ、上枠から反対の横枠の下方へ向かって拭き上げる。最後に下枠を拭き上げる。

- ・乾拭き作業も濡れ拭き作業同様にネジ間は一方向動作で仕上げる。
- ・濡れ拭き、乾拭き作業とも、ガラス枠を挟みこんで拭き上げないよう注意する。

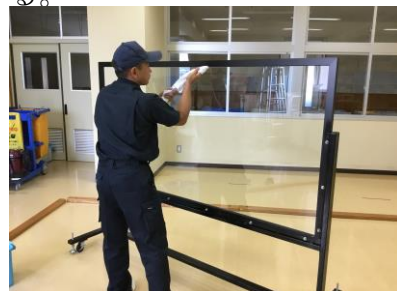


⑩ガラス面仕上げ作業と補修作業

- ・白タオル（乾式）を4つ折りにして人差し指にタオルを巻くようにして持ち、もう片方の手ではみ出した部分のタオルに手を添える。



- ・ガラス面の一枠ごとに、ガラス面とふちをタオルの乾いた面を使用しながら拭き上げる。



- ・ガラス面の中央に立ち、全体の仕上がりを確認する。



- ・特にガラス下枠部分は水分が多く残っているために、数回程度新しい面を使用しながら拭いていく手法と、下部を一気に拭き上げた後、新しい面を使用し再度拭き上げる手法のどちらでも良い。

- ・水滴が残っている場合には、タオルで軽く押さえるようにして仕上げる。



・仕上げと補修作業が終わったら、白タオルを8つ折りにして収納ケースの下部に戻す。



⑪床拭き作業

・青タオル（湿式）を8つ折りのままガラス枠下部の補強棒と作業床面を拭き上げる。



・最後に収納ケース、水バケツの下を拭き上げる。



・作業終了の前にスクイジーを拭き上げるためこの時点ではまだスクイジーをケースのふちに掛けておく。

・補強棒は8つ折りにしたタオルを上から包み込むように当て拭き上げる。

・作業床面は半分ずつタオルの面を変えて拭く。



⑫資機材の片付け

- 作業を終えた青タオル（湿式）をバケツの中に戻す。



- スクイジーを白タオル（乾式）で拭き上げ、8つ折りのままケースの下に敷き、その上にゴム刃を上向きにして収納する。

- 左図の状態のまま作業カートへ戻す。

⑬退室の挨拶

- ・収納ケースと水バケツを持ち、入口前まで戻る。



- ・作業開始時と同様に片側に揃えて置く。



- ・入口前に立ち、帽子を取り「失礼しました」と礼をする。



- ・置き場所は左右どちらでもよい。

- ・きびきびとした動作とはっきりとした声で挨拶をする。

⑭資機材の片付け

・作業に使用した資機材を元の位置に戻す。



・作業終了後は開始前と違い、青タオル（湿式）は水バケツの中に入れて状態で定位置(中段)に戻す。
同様にスクイジー、白タオル（乾式）も収納ケースに入れたままで定位置(上段)に戻す。


・作業カートに作業表示板を戻す。

全ての資機材を定位置に戻した状態



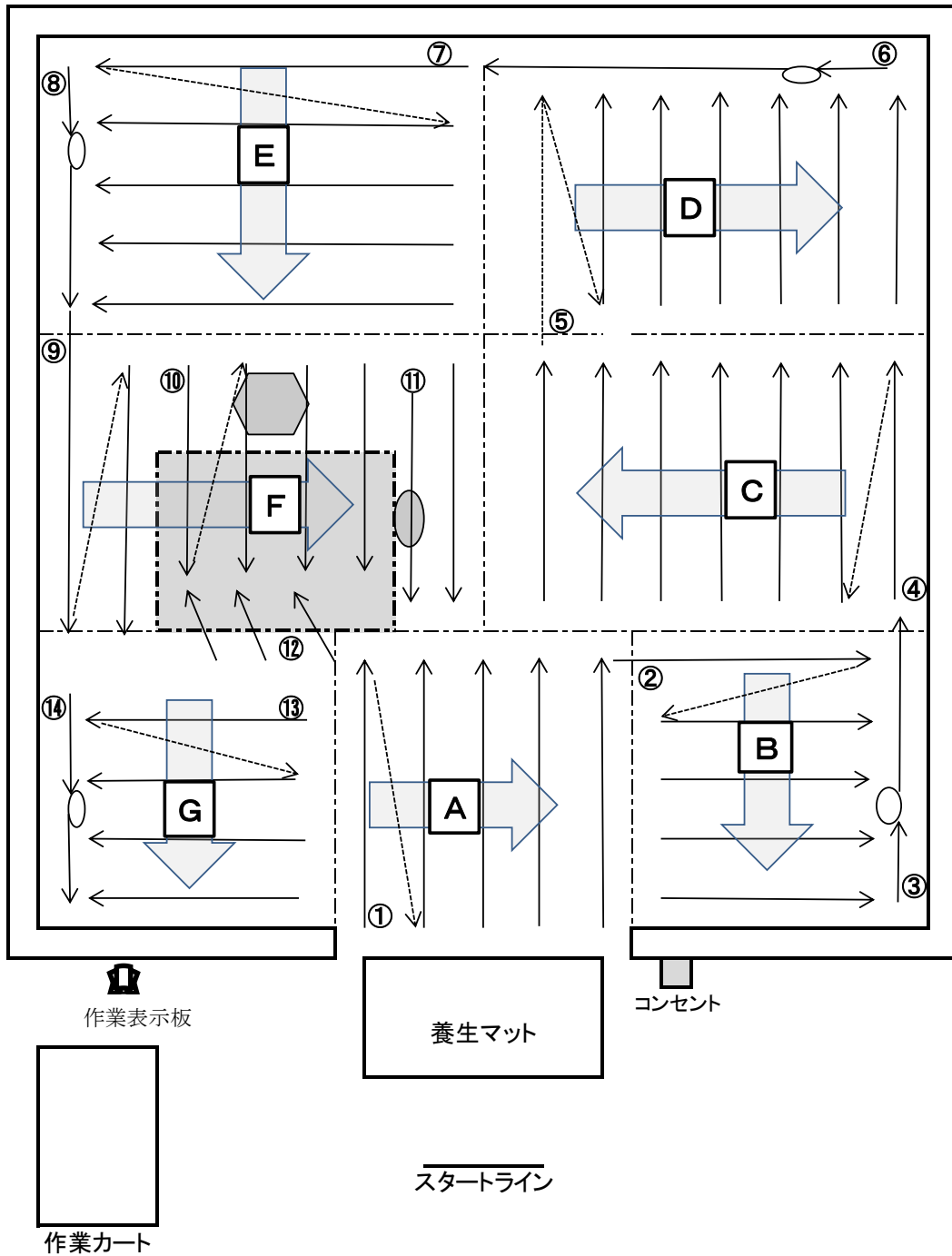
・収納場所（赤枠内）へと作業カートを進める。

(10) 全作業終了の挨拶

工 程	内 容	指 導 内 容
①作業カートを作業前の位置まで戻す		<ul style="list-style-type: none"> ・枠からはみ出さないように作業カートを元に戻す。
②審査員に終了の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・片手をあげ、「作業、終了しました」と申告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ立ちきびきびとした動作で行う。 ・審査員に聞き取りやすいように挨拶の早さや声量を意識する。 ・開始の挨拶「作業始めます」から終了の挨拶「作業終了しました」までの時間が検定時間とする。

(11) じゅうたん清掃手順図

①じゅうたん清掃標準経路 (マスター検定・チャレンジ検定)



* じゅうたん上にはゴミに見立て、シュレッダーで裁断した紙片が50ml程度撒いてあります。

* 手順図上の と と ○内の番号は、除塵作業の動線図を示しています。

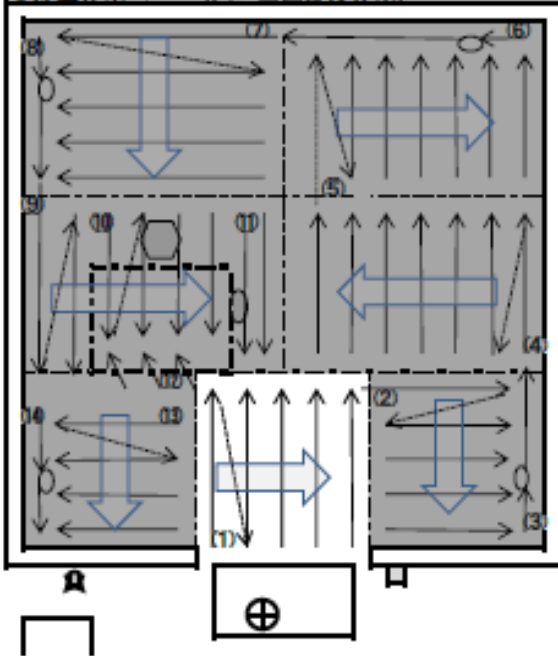
* 手順図上の は、作業の進行方向を示しています。

② じゅうたん清掃作業区分手順図（マスター検定・チャレンジ検定）

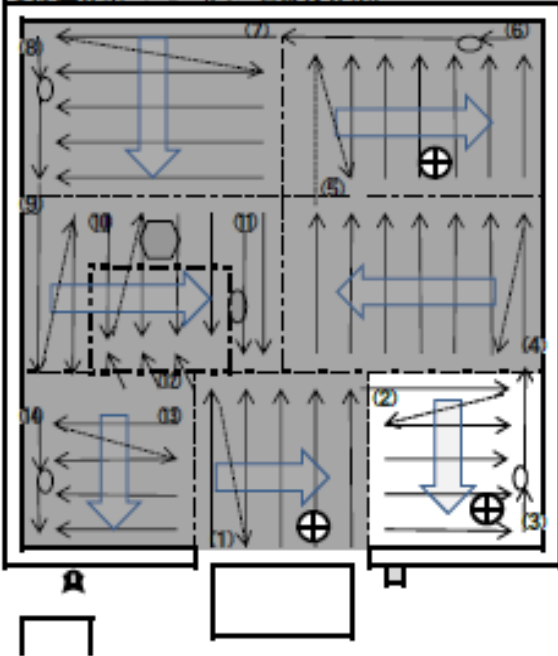
じゅうたん清掃作業区分図（Aエリア～Gエリア）及び真空掃除機の作業配置図

* 下記に示したA～Gの除塵手順図の→ と ⊕ は、除塵の進行方向とその作業に最適な掃除機の設置場所を示していますが、除塵作業の回数を表したものではありません。また、掃除機の設置場所は作業上の目安として示した場所であり、作業中に掃除機がホースに引っ張られて移動、もしくは作業の邪魔になるような場合は、常に最適な位置に移動して作業を行ってください。

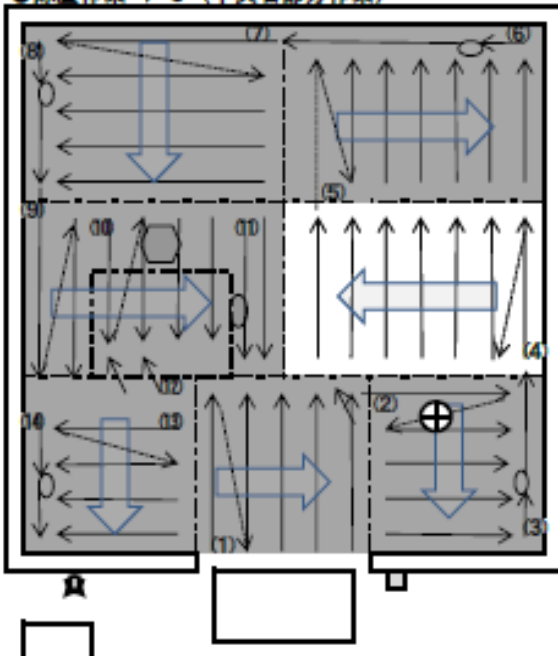
●除塵作業：A（入口正面部分作業）



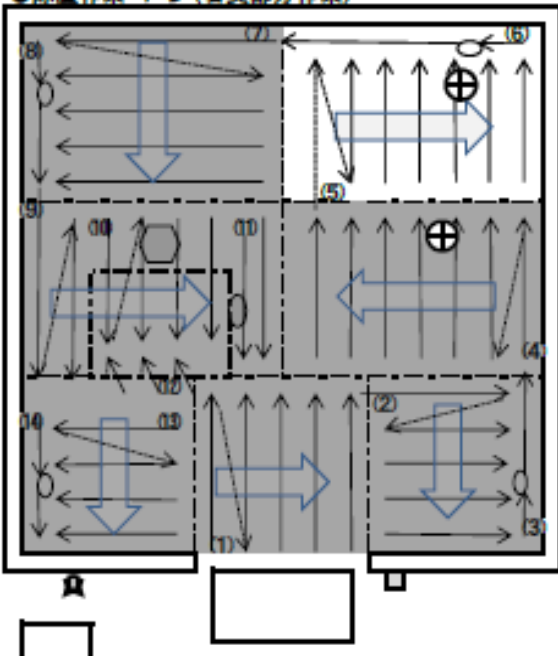
●除塵作業：B（入口右部分作業）



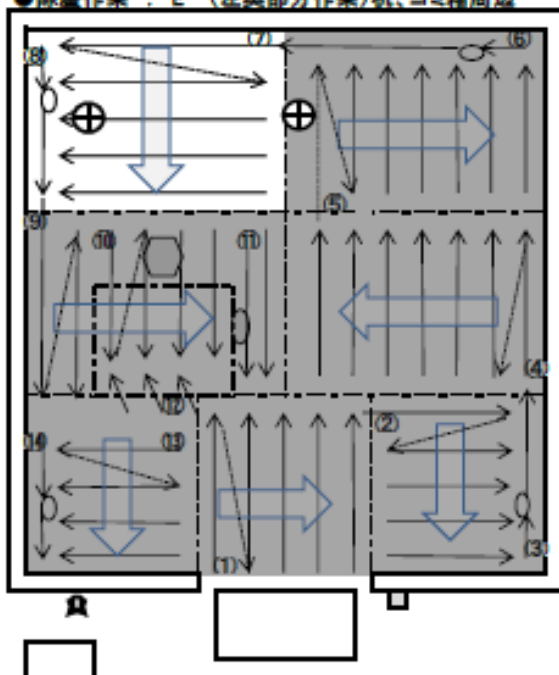
●除塵作業：C（中央右部分作業）



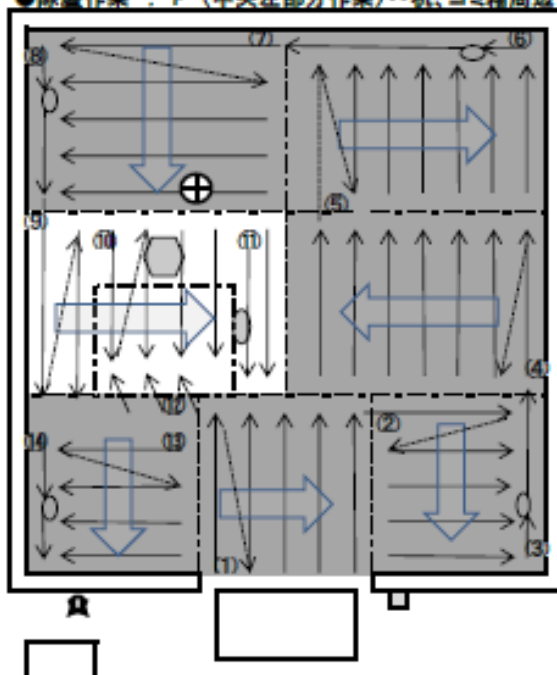
●除塵作業：D（右奥部分作業）



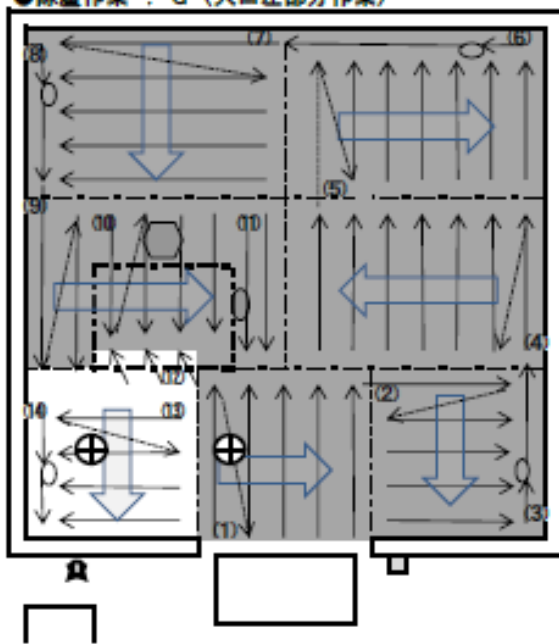
●除塵作業：E（左奥部分作業）机、ゴミ箱周辺



●除塵作業：F（中央左部分作業）机、ゴミ箱周辺



●除塵作業：G（入口左部分作業）

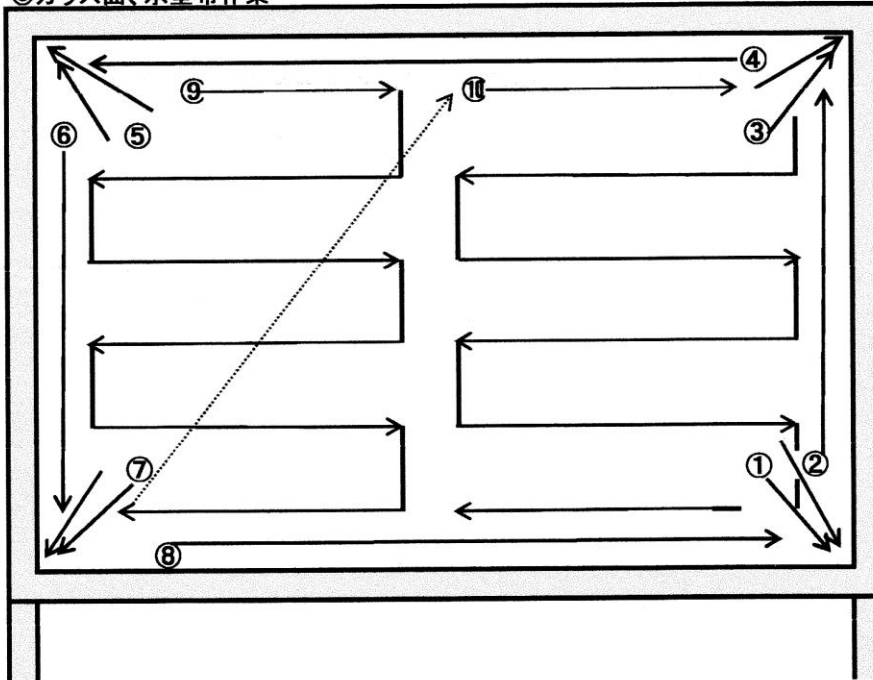


(12) ガラス・窓枠清掃手順図 (マスター検定)

① ガラス面水塗布手順図・スクイジー技法手順図

ガラス・窓枠清掃 手順図

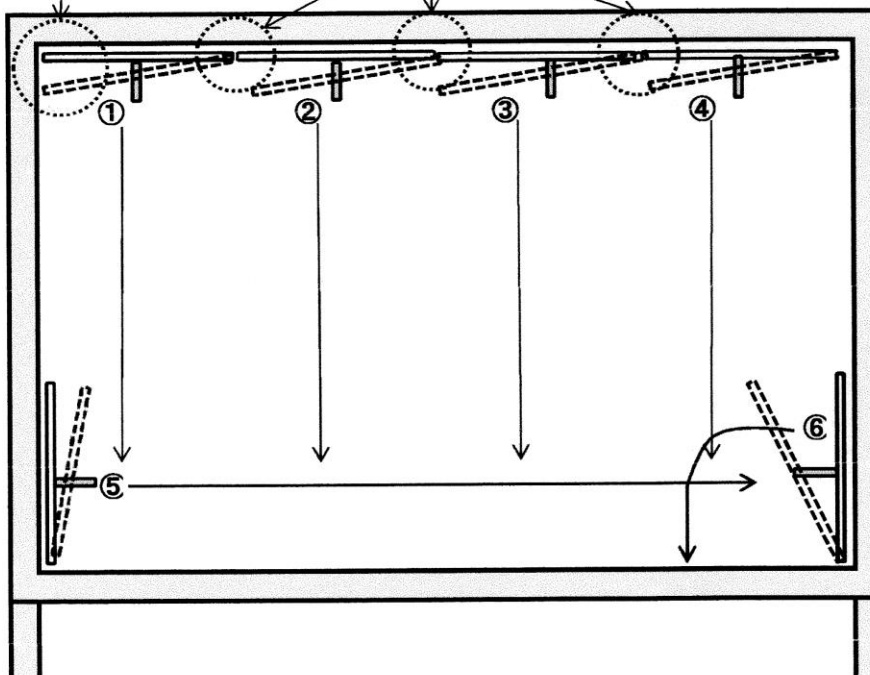
◎ガラス面、水塗布作業



*水塗布作業は枠側から中心部への塗布となりますが、出発点は①の隅から横枠・上枠・横枠・下枠側への塗布となります。または⑦から始めて上方へ向かう反対の方法でも問題ありません。

◎スクイジー作業

作業の終了したゴム刃を5cm程度傾けて進める
スクイジーを5cm程度重ねる

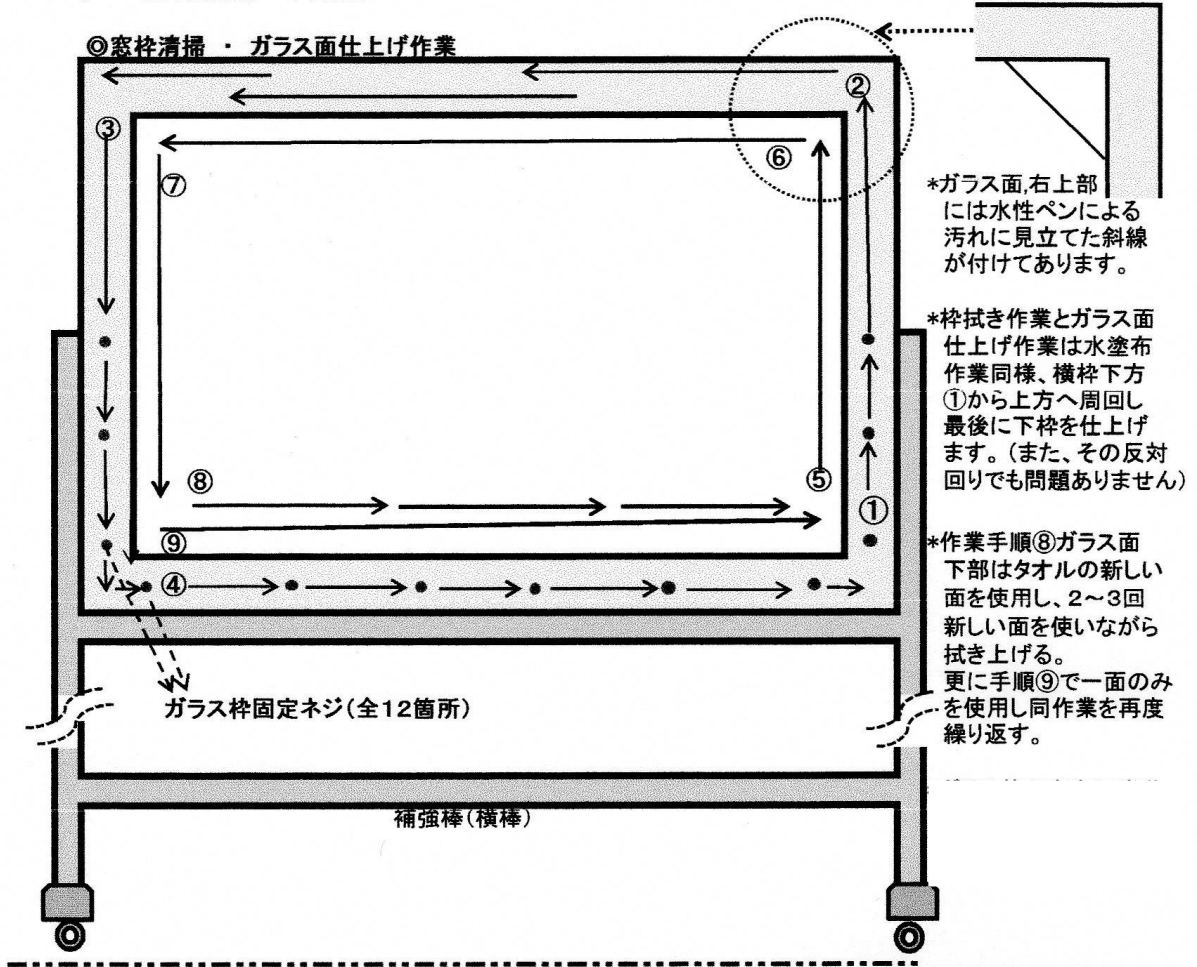


*スクイジー作業は図に示す動線での作業を推奨しますが反対方向からの作業でも問題ありません(その際スクイジーの傾きは逆になります)。

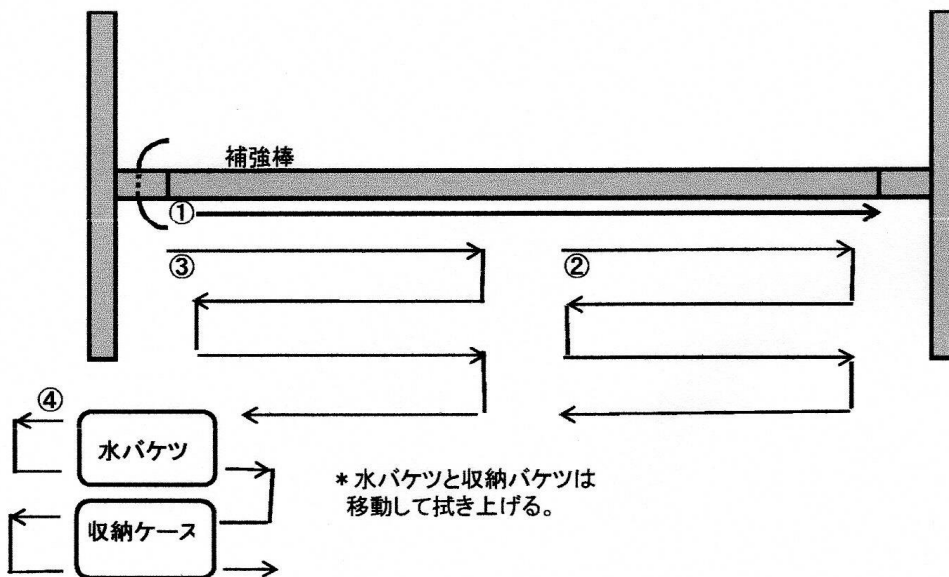
② ガラス・窓枠清掃手順図

窓枠清掃手順図・ガラス面仕上げ作業手順図

ガラス・窓枠清掃 手順図



◎補強棒(横棒)、床拭き作業



8 評価と採点方法

(1) 評価項目と評価基準

マスター検定、チャレンジ検定の評価項目を示します。検定ではこの評価項目と評価基準で採点します。

マスター検定 技能面 3 2 項目、総合的な習熟度や時間及び態度面 5 項目

No.	評価項目	評価基準
服装・作業準備 各項目 5～1 点		
1	帽子、作業服（体操服）、シューズを着用している	・身だしなみが整っている
2	作業用カートは作業のしやすい場所に移動されている	・枠内から出されている
3	作業表示板は適切な位置に立てられている（見えやすい場所である）	・表示板のセット位置と向きが正しい ・表示板は確実に広げられている
真空掃除機（本体）の準備と始動点検 各項目 5～1 点		
4	入口右側に移動し、コンセントにプラグを差し、コードが広げられている	・カートに準備された状態で持ち運ぶ ・作業のしやすい場所にコードが広げられている
5	スイッチを入れ、風量の確認がされている	・吸い込み口に手をあてがい風量、スイッチの入切の確認を指差しで行っている
除塵作業 各項目 5～1 点		
6	片手でホースの屈曲部を持ち、一方はノズル管に添えられている	・本体がホースとノズル管に引っ張られ移動しないよう注意する
7	作業手順（動線）を意識して作業を行っている	・除塵した場所以外に足を踏み入れない ・無理、無駄な動作が少ない
8	吸い込みノズルの往復動作は一定の間隔を保ちスムーズである	・ノズルの重なり幅は均一で幅木、机に接触していない
9	吸い込みノズルの床面への接地は一定に保たれている	・ノズルが浮かないよう角度を調整し、強く打ちつけないよう意識している
10	本体の移動方法とコードさばきは適切である	・移動後は持ち手が収納されている ・コードを踏んだり跨いだりしていない
11	椅子、ゴミ箱の移動はスムーズで適切な場所に移動されている	・除塵を終えた場所に移動されている
12	作業後、プラグを抜き、コードをたぐり寄せている	・作業開始時と同場所に本体は仮置きされている

点検作業 各項目 5～1 点		
13	指差し確認によるゴミの有無、椅子及びゴミ箱は作業前の状態である	・吸い残しのゴミは適切（ポケット）に処理され椅子、ゴミ箱の位置の微調整が行われている
機材の片付け 各項目 5～1 点		
14	本体コードとノズル管は作業前の状態で作業カートの定位置に戻されている	・本体の根元からヨリを取りながらコードが巻かれ、ノズル管を取り付けた状態で持ち運んでいる
資機材セットと作業準備 各項目 5～1 点		
15	作業カート上の使用資材が収納ケース、水バケツに準備されている	・収納ケースにはスクイジーと白タオル（乾式）、水バケツには青タオル（湿式）がセットされている
16	コート内へと持ち込んだ資材は作業に支障の無い場所に置かれている	・作業台の左右いずれかの位置に並べて置かれている
ガラス洗浄作業 各項目 5～1 点		
17	青タオル（湿式）の絞り具合とたたみ方は適切である	・8つ折りにし、タオルから水が垂れ落ちない程度に絞られている
18	青タオル（湿式）の持ち方と塗布手順は無駄の無い手法である	・水性ペンの汚れを取りつつ枠の四隅は押し込むように塗布されている
19	中央部は半面ずつタオルの面を替え横塗りで塗布され、塗り残しが無い	・体全体を使い、目線の正面に塗布作業が確認できる態勢である
20	スクイジーの持ち方とゴム刃の角度は適切である	・全ての指で軽く握られ、体全体を使い引き下ろされている
21	縦引き作業でのスクイジーの傾きが保たれ、重なり具合も適切である	・作業毎にゴム刃が拭かれ、作業終了面のゴム刃が3 cm程度先行している
22	下部の横引き、扇引き作業で枠下にタオルが添えられている	・作業前の再塗布も可能で、引き音は抑えられ床面に水が落ちていない
枠拭き作業・ガラス面仕上げ作業 各項目 5～1 点		
23	青タオル（湿式）は固く絞られ、16折りで持ち確実に拭き上げている	・指全体で包み込むように持ちガラスに触れないよう往復動作で拭き上げている
24	固定ネジ部分は、一方向動作で確実に拭き上げている	・枠下部にたまった水滴に注意しながら丁寧に拭き上げている
25	白タオル（乾式）に持ち替え No.23/24 と同作業が行われている	・持ち替えたタオルで No.23/24 と同作業を実施
26	白タオル（乾式）を4つ折りで使用し、ガラス枠部には水滴が残っていない	・タオルを人差し指に巻くように持ち、余った部分には手が添えられている

ガラス面点検作業 各項目5～1点		
27	ガラス面全体を見渡し、指差しにより仕上がりの確認がされている	・残っている水滴は、タオルで上から押さええる手法で処理されている
床拭き作業と資材の搬出 各項目5～1点		
28	青タオル（湿）で補強棒、作業床、ケース、バケツ下部を拭き上げている	・横方向の往復動作で、作業で移動した場所は全て拭き上げている
29	各資材は作業前の状態で収納ケース、水バケツに収められている	・収納ケース内には白タオル（乾式）とゴム刃が上向きのスクイジー、水バケツには青タオルが収められている
後片付け 各項目5～1点		
30	各資材は、作業カートの定位置に戻されている	・作業後の資材は持ち帰った状態で定位置に収められている
31	作業表示板を作業カートに戻す	・作業カートの定位置に戻されている
32	作業カートを所定の位置に戻す	・枠内に収められ、はみ出していない
作業態度 各項目5～1点		
33	両作業における入退室の挨拶は適切である	・「失礼します」「失礼しました」が適切に言える ・作業中の入退室時は黙礼が出来ている
総合評価 No.34 5～1点 / No.35～36 10～1点		
34	作業中の机、ガラス台の移動等	・じゅうたん清掃時の机への接触、移動が無い ・ガラス清掃時の台の移動、倒れる危険が無い
35	じゅうたん清掃作業全般の熟練度（動作・節度・リズム感）	優秀・・・10点～9点 良・・・8点～6点 普通・・・5点～1点
36	ガラス窓枠清掃作業全般の熟練度（動作・節度・リズム感）	優秀・・・10点～9点 良・・・8点～6点 普通・・・5点～1点
作業時間評価		
37	作業時間	規定時間内（15分）・・・10点 15分超～16分・・・7点 16分超～17分・・・4点 17分超～18分・・・1点 18分超～・・・0点（タイムオーバー）

チャレンジ検定 技能面 16 項目、総合的な習熟度や時間及び態度面 4 項目

No.	評価項目	評価基準
服装・作業準備 各項目 5～1 点		
1	帽子、作業服（体操服）、シューズを着用している	・身だしなみが整っている
2	作業用カートは作業のしやすい場所に移動されている	・枠内から出されている
3	作業表示板は適切な位置に立てられている（見えやすい場所である）	・表示板のセット位置と向きが正しい ・表示板は確実に広げられている
真空掃除機（本体）の準備と始動点検 各項目 5～1 点		
4	入口右側に移動し、コンセントにプラグを差し、コードが広げられている	・カートに準備された状態で持ち運ぶ ・作業のしやすい場所にコードが広げられている
5	スイッチを入れ、風量の確認がされている	・吸い込み口に手をあて風量、スイッチの入切の確認を指差しで行っている
除塵作業 各項目 5～1 点		
6	片手でホースの屈曲部を持ち、一方はノズル管に添えられている	・本体がホースとノズル管に引っ張られ移動しないよう注意する
7	作業手順（動線）を意識して作業を行っている	・除塵した場所以外に足を踏み入れない ・無理、無駄な動作が少ない
8	吸い込みノズルの往復動作は一定の間隔を保ちスムーズである	・ノズルの重なり幅は均一で幅木、机に接触していない
9	吸い込みノズルの床面への接地は一定に保たれている	・ノズルが浮かないよう角度を調整し、強く打ちつけないよう意識している
10	本体の移動方法とコードさばきは適切である	・移動後は持ち手が収納されている ・コードを踏んだり跨いだりしていない
11	椅子、ゴミ箱の移動はスムーズで適切な場所に移動されている	・除塵を終えた場所に移動されている
12	作業後、プラグを抜き、コードをたぐり寄せている	・作業開始時と同場所に本体は仮置きされている
点検作業 各項目 5～1 点		
13	指差し確認によるゴミの有無、椅子及びゴミ箱は作業前の状態である	・吸い残しのゴミは適切（ポケット）に処理され椅子、ゴミ箱の微調整が行われている

機材の片付け 各項目 5～1点		
14	本体コードとノズル管は、作業前の状態で作業カートの定位置に戻されている	・本体の根元からヨリを取りながらコードが巻かれ、ノズル管を取り付けた状態で持ち運んでいる
後片付け 各項目 5～1点		
15	作業表示板を作業カートに戻す	・作業カートの定位置に戻されている
16	作業カートを所定の位置に戻す	・枠内に収められ、はみ出していない
作業態度 各項目 5～1点		
17	入退室時の挨拶と黙礼は適切である	・「失礼します」「失礼しました」が適切に言える ・入退室の都度、黙礼が出来ている
総合評価 No.18 5～1点 / No.19 10～1点		
18	作業中の机の移動等	・作業中の机への接触、移動が無い
19	作業全般の熟練度（動作・節度・リズム感）	優秀・・・10点～9点 良・・・8点～6点 普通・・・5点～1点
作業時間評価		
20	作業時間	規定時間内（10分）・・・10点 10分超～11分・・・7点 11分超～12分・・・4点 12分超～13分・・・1点 13分超～・・・0点（タイムオーバー）

(2) 採点方法

採点は、3名の審査員によって行われます。採点の概要は次のとおりです。

- ①各審査員が、各項目（検定評価表参照）を評価し採点していく。
- ②1つの項目につき、3名の審査員の仮得点の平均を四捨五入した値を、級の決定に使う評価得点とする。

＜例＞項目2について、審査員Aが4点、審査員Bが3点、審査員Cが4点の場合、平均の値を四捨五入して評価得点4点とする。

- ②全項目の評価得点を合計した総得点で級を決定する。

(3) マスター検定とチャレンジ検定の級

マスター検定とチャレンジ検定でそれぞれ級を決定します。総得点と級は次の表のとおりです。

マスター検定

1 級	2 0 0 ~ 1 9 1
2 級	1 9 0 ~ 1 8 6
3 級	1 8 5 ~ 1 8 1
4 級	1 8 0 ~ 1 7 6
5 級	1 7 5 ~ 1 7 1
6 級	1 7 0 ~ 1 6 6
7 級	1 6 5 ~ 1 6 1
8 級	1 6 0 ~ 1 5 6
9 級	1 5 5 ~ 1 5 1
1 0 級	1 5 0 ~

チャレンジ検定

1 級	1 1 0 ~ 1 0 6
2 級	1 0 5 ~ 1 0 1
3 級	1 0 0 ~ 9 6
4 級	9 5 ~ 9 1
5 級	9 0 ~ 8 6
6 級	8 5 ~ 8 1
7 級	8 0 ~ 7 6
8 級	7 5 ~ 7 1
9 級	7 0 ~ 6 6
1 0 級	6 5 ~

9 参考資料

(1)

鳥取県特別支援学校技能検定(清掃部門) 進行表

【チャレンジ検定】 じゅうたん床清掃

作業時間 : 10分

【検定補佐員】	【審査員】
(検 定 前 準 備)	
A 一組目の受験者の準備の前に掃除機のコードの巻き直しを実施(支障がなければそのままでも可)	1 シュレッダー片をコート上に撒く(50ml程度)
	2 椅子、ゴミ箱の位置調整
* 二組目からは検定中に「A」の作業を実施	
(検 定 準 備)	
B (次の方は)受験票を椅子の上かポケットに保管して倉庫の前に来てください	
C 倉庫内から掃除機を取り出し、カート内に準備して下さい。準備が終わりましたら確認しますので声を掛けてください。	
* 資材の配置に不備があれば補佐員が指示し受験者が修正	
* 受験者から資材セットの要請があれば補佐員が準備	
D 必要な道具は準備(出来ています)(出来ました)ので受験票を持ってスタートラインに立ってお待ちください	
	3 Cコート〇〇番さん、受験票を持って審査員席に来てください
	4 合図があるまでスタートラインに立ってお待ちください
(検 定 開 始)	
* 二組目からは検定中に(前受験者)の作業カート内の掃除機の搬出とコードの巻き直しを行い倉庫にセット	5 「チャレンジ検定、じゅうたん床清掃」 始め
(検 定 終 了)	
	6 只今の作業時間、〇分〇秒でした
E 前受験者が席に着いたら次受験者に検定準備を指示(B → C → D)の工程を繰り返す	7 審査員席まで受験票を取りに来て下さい
	8 採点表の記入とすり合わせ

(2)

鳥取県特別支援学校技能検定(清掃部門) 進行表

【マスター検定】じゅうたん床清掃及びガラス・窓枠清掃

作業時間 : 15分

【検定補佐員】	【審査員】
(検 定 前 準 備)	
A 一組目の受験者の準備の前に掃除機のコードの巻き直しを実施(支障がなければそのままでも可)	1 シュレッダー片をコート上に撒く(50ml程度) 2 椅子、ゴミ箱の位置調整 3 作業面の右上にマーカーで斜線を付ける
* 二組目からは検定中に「A」の作業を実施	
(検 定 準 備)	
B (次の方は)受験票を椅子の上かポケットに保管して倉庫の前に来てください	
C 倉庫内から必要な道具を選んでカート内に準備して下さい。準備が終わりましたら確認しますので声を掛けてください。	
* 資材の選定と配置に不備があれば補佐員が指示し受験者が修正	
* 受験者から資材セットの要請があれば補佐員が準備	
D 必要な道具は準備(出来ています)(出来ました)ので受験票を持ってスタートラインに立ってお待ちください	4 Cコート〇〇番さん、受験票を持って審査員席に来てください 5 合図があるまでスタートラインに立ってお待ちください
(検 定 開 始)	
* 二組目からは検定中に(前受験者)の作業カート内の資材の搬出と倉庫内の資材のセット及び掃除機のコードの巻き直し	6 「マスター検定、じゅうたん床清掃及びガラス・窓枠清掃」 始め
(検 定 終 了)	
	7 只今の作業時間、〇分〇秒でした
E 前受験者が席に着いたら次受験者に検定準備を指示(B → C → D)の工程を繰り返す	8 審査員席まで受験票を取りに来て下さい 9 採点表の記入とすり合わせ